

令和5年2月定例市議会

# 施政方針

和歌山市



ただいま上程されました諸議案の審議をお願いするに当たり、私の市政に対する所信の一端と、令和4年度の国補正にかかる補正予算と令和5年度当初予算の大綱を申し述べ、市民の皆様、議員の皆様のご理解とご協力を賜りたいと思います。

### (新型コロナウイルス感染症等に関する現状と展望)

本市で、新型コロナウイルス感染症の発生を確認してから、約3年が経過しました。県内唯一の保健所設置市である本市は、感染者が急増した際には、保健所業務を支援するサポートセンターを設置し、救急搬送が逼迫した際には、受入先の病院が決まるまで応急処置を行う入院待機ステーションを設け、円滑な搬送や自宅療養者への対応、速やかなワクチンの接種調整などコロナ対策に全力で取り組み、感染拡大の防止に努めてきました。この取組にご協力をいただいてきました市民の皆様、医療従事者をはじめとするエッセンシャルワーカーや事業者の皆様のご尽力に心から御礼申し上げます。

一方で、長期化するコロナ禍の中で社会経済活動や市民生活は大きな影響を受け、自粛生活が習慣化することで、健康活動などにも大きな弊害が出始めています。本市としては、コロナ禍前の日常を

取り戻せるよう、医療機関との連携のもと、保健・救急医療などの機能を維持しながら、令和5年度は脱コロナに向けた準備を大きく前へと進めます。政府は先月、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけについて、本年5月8日に「2類相当」から季節性インフルエンザと同じ「5類」へと引き下げることを見事決定しました。今後、医療費の公費負担の維持に加え、医療現場の混乱や事務負担が生じないかなどについて、慎重に経過を見極めながら、必要に応じて更なる国への働きかけを行ってまいります。

#### (令和5年度予算のポイント)

他方、IoT・AI等のデジタル技術の飛躍的な進歩、新たなモビリティの進展、脱炭素への世界的な関心の高まりなど、我々の生活や経済・社会を取り巻く情勢は日々変化し、未来へと進み続けています。こうした変化に柔軟に対応し、力へと変える取組を積極的に推進することで、ポストコロナへの転換をより具体的に進めてまいります。

令和5年度は、本市を取り巻く社会環境の変化を、脱コロナに加えて、新たな希望や可能性に向けて踏み出す重要な機会と捉え、「オ

ール和歌山市の力で実現する、コロナ禍からの脱却と新たな出発のための予算」と位置付け、将来の発展に向けた取組を行います。

以下、令和5年度の主要事業を、昨年9月に所信で述べた4つのまちの将来像に沿ってご説明いたします。

#### ◆ふるさとで学び働けるまち

1つ目は、「ふるさとで学び働けるまち」です。

未来を担う若者をはじめ、全ての人がこのまちで誇りをもって学び、また、働くことのできるよう、多様な学びや成長を提供するための環境を整えるとともに、産業面では、市内企業の成長促進、稼げる観光や農水産業づくりなどを通じ、市民の所得向上にもつながる持続的な発展を目指してまいります。

#### (地域×学生 つながりにより生み出される新たな未来)

学生が学び働ける環境を更に充実させるため、専門性が高く地域に必要な大学や専門学校等について引き続き誘致に取り組むなど、「地学地就」の実現を目指します。また、大学と学生、地域の連携

についてこれまで以上に促進、支援することで、継続的な関係の構築を図り、本市への愛着の醸成と将来の定住につなげてまいります。

### **(成長を後押しする地域産業の活性化)**

地域の産業を活性化させ、持続的な発展につなげていくためには、企業の成長と従業員への分配の好循環をつくりだすことが肝要です。本市市民の所得向上にもつながるよう、市内企業の更なる成長を後押しします。

市内企業が生産性を向上させ、従業員の給与を増加させる取組を支援するための補助制度を創設します。併せて、人と企業のマッチングや働く女性の活躍推進に加え、個人が仕事に生かすことのできる新たな知識やスキルを学ぶためのリカレントやリスキリングを、市内大学等との連携を通じて推進し、人材の能力向上によって更なる生産性向上につなげるなど、成長と分配の好循環を生み出すための施策を展開します。

コロナ禍以降、本市へ進出する市外企業はIT関連企業を中心として順調に増加傾向となっており、今後も継続して地方進出意欲の高まりを捉えた企業誘致を推進することで、産業の振興と雇用機会

の拡大につなげます。

未来を担い、地域を守る農水産業を振興するための取組を推進します。これまで以上に担い手の育成・確保のための支援に力を入れるとともに、農水産物のブランド化を推進することで、安定的な経営構造の実現につなげます。また、環境にも配慮するなど、持続的な発展を後押しし、併せて農村・漁村振興のための施策を実施することで、未来へと続く強い農水産業づくりを目指してまいります。

#### **(地域の資源を生かした“稼げる観光”の推進)**

今後の成長分野として期待される観光産業においては、コロナ禍でのマイクロツーリズムに加え、ポストコロナのインバウンド回復や2025年の大阪・関西万博の開催も見据えた“稼げる観光”を加速させます。和歌山城周辺、和歌の浦、加太、紀三井寺等の主要観光地を中心に、本市の持つ自然や歴史文化をはじめとした魅力を観光資源として更に磨き上げ、質の高い観光コンテンツ・観光パッケージを造成することで、観光消費額の増加を目指します。

先日、若い女性を中心に絶大な人気を誇るファッションフェスタ「東京ガールズコレクション」の関西初となる地方創生プロジェク

ト、「TGC和歌山2023」が本市で開催されました。産官学の共創のもと大きな盛り上がりを見せた同イベントの効果を、継続的な魅力発信とシビックプライドの醸成につなげていくための取組を推進します。

また、ふるさと観光大使を務めていただいたHYDE氏の記念ギャラリーなど、ファン層を中心として訴求力の高いコンテンツ等を通じたPRを推進するとともに、事業者によりグランピング施設の整備が行われる道の駅 四季の郷公園、サイクリングや和歌山ジャズマラソンのツーリズム推進など、一年を通して楽しめる観光資源や文化・スポーツの活用を通じ、継続的な観光客の獲得を図ります。

まちなかでは、光の演出を用いて夜を彩り、賑わいと憩いの空間を生み出す仕掛けづくりを行います。本市の玄関口であるJR和歌山駅から和歌山城までを結ぶけやき大通りのイルミネーションについて、民間との共創により取り組みます。周辺施設等のライトアップ・イルミネーションや、和歌山マリーナシティで開催されている光の祭典「フェスタ・ルーチェ」等と連携することで、回遊の楽しさを向上させ、冬季・夜間等閑散期の誘客促進と滞在時間の延伸、ナイトタイムエコノミーの推進につなげます。



2024年、万葉の地・和歌の浦は、歌人・山部赤人が歌に詠んでから1300年の節目を迎えるため、その魅力を改めて国内外に発信するための準備と魅力を高める取組を推進します。今年度復旧が完了する和歌浦観光遊歩道に引き続き、歴史的景観の磨き上げや魅力向上施設の整備に取り組みます。

加太・友ヶ島においては、地域の持つ様々な観光価値を活用した取組を推進します。2023年版「訪れてみたい日本のアニメ聖地88」にも選定され、海外でも人気を博しているアニメ『サマータイムレンダ』と連携した施策を展開することで、アニメツーリズムによる来訪を促します。また、友ヶ島砲台や日本遺産「葛城修験」等、地域に残る歴史・文化の魅力を発信するなど、多面的なPRによって更なる誘客を促進してまいります。

#### ◆県都として活力にあふれたまち

2つ目は「県都として活力にあふれたまち」です。

海・山・川という豊かな自然に囲まれ、自然と都市がコンパクトにまとまっている地域特性や万葉の時代から人々を魅了してきた歴

史・文化などを有することは、他都市に引けを取らない本市の大きな魅力の一つです。これらの魅力をまちづくりと融合させることで、これまで以上に住み続けたいくなるまちの創造を目指してまいります。

### **(未来をつくる人を呼び込むプロモーション)**

移住・定住施策では、本市で新たな暮らしをスタートしようとする人に寄り添い、支援するための取組を推進します。県外からの移住者に対する支援金の交付や地域における受入れ環境の構築、住まいの確保の支援など、移住者が本市での暮らしをスムーズに始められるような支援の充実を図ります。

併せて、移住希望者はもとより潜在的に移住に関心を持っている方にも効果的に訴求し、また、本市に興味を持たれた方に実際の暮らしを体感してもらえよう、シティプロモーションと体験型コンテンツ「トライアル和歌山市」の取組を推進してまいります。

### **(まちを次のステージへと進める成長の共創)**

これまで、まちなかへの大学誘致や、公共施設の再配置を通じた市民図書館等の整備、公園等の都市空間整備、リノベーションの推

進など、民間と連携した取組により、まちなかに多くの賑わいの拠点を作り出してきました。今後はその賑わいを点から線へ、線から面へと広げるべく、民間と共に創り上げる「共創」を推し進めます。

本市の玄関口であるＪＲ和歌山駅ですが、現在、東口は土地の高度利用がなされておらず、賑わい創出と利便性の向上、駅前広場の快適性や交通結節機能の充実が求められています。そこで、公募により選定する民間事業者の提案をもとに、将来的なＪＲ和歌山駅周辺のまちづくりも見据えた魅力向上のための整備を進めます。

南海和歌山市駅近傍に位置する旧市民会館は、海からも近く、また、市堀川に隣接しており、水辺を生かした「かわまちづくり」と連携した利活用が期待されることから、公募による提案を通じてその可能性を引き出します。併せて、駅前の再開発事業を後押しするなど、市駅周辺エリアの都市整備を次のステージへ進めるための取組を推進します。

それらをつなぐ中心部では、城前広場をはじめとする公共空間の活用を進めるとともに、本町公園や北ぶらくり丁商店街といった民間による賑わいが育ちつつある拠点との回遊性を高め、歩きたくなるまちの形成を目指します。また、友田町３丁目周辺地区における

再開発に向けた支援や、空き店舗を活用したまちなかイロドリなど、民間活力を生かしたまちなかの活性化を促進します。

豊かな自然に親しむことができる紀の川周辺の緑地では、昨今のアウトドアニーズの高まりも踏まえ、魅力を高めるための整備の検討に着手します。広場のリニューアルをはじめ、多様なアクティビティを楽しみながら幅広い世代が自然と触れ合うことができる拠点づくりを進めるため、総合的な整備に向けた基本計画を策定します。

市の北西部に位置する丘陵地は、高台ゆえに災害に強く、また、豊かな自然を有しながら、大学などの教育機関やつつじが丘総合公園、西庄ふれあいの郷ハーブ園など、多くの都市機能が立地しています。また、コスモパーク加太やスカイタウンつつじが丘を含め、企業や住宅の整備が可能な用地が広大にあるなど、本市において新たな都市を形成できるポテンシャルが非常に高いエリアです。これらを有効に活用し、自然とテクノロジーが融和するエリアとしての開発を誘導することができれば、県外からも人が集まる魅力的な都市が実現できると考えています。

## (歴史ある城下町の豊かな自然と文化の継承)

和歌山城の魅力を更に向上させるための取組を推進します。再建後60年以上が経過している天守閣の整備方針についての検討を進め、これまで以上に市民にも来訪者にも愛される和歌山城を目指します。また、扇の芝においては、かつての姿を再現するための取組を更に進めるとともに、南に広がる親緑性の高い都市空間との一体的な活用を検討することで、和歌山城を中心とした緑のまちづくりにもつなげます。

文化面では、その振興を通じて郷土への誇りと愛着を育む取組を推進します。本市の文化の殿堂である和歌山城ホールを拠点とし、広く市民が文化芸術に触れることのできる機会の創出を図ります。また、有吉佐和子記念館の開館を契機とした文学への関心の高まりを捉え、有吉佐和子文学賞を創設することにより、更なる文化的風土の醸成へとつなげます。

本市はこれまで、SDGs未来都市としての持続可能な海づくりに向け、企業等との連携を深めながら、海洋プラスチック問題等の検討を図るなど、本市の自然環境を守り、未来へと継承するための取組を進めてきました。

今後、更に脱炭素のまちづくりに向けて、遊休農地を活用し、脱炭素と有機農業の推進を両立させる取組を進めます。現在は焼却されている有機性廃棄物を堆肥化する実証実験を行い、併せて生成された再生肥料を都市農地等で使用することで、環境負荷が少なく、健康にも良い農作物を、新鮮な状態で学校給食等の消費地に提供する「わかやま型脱炭素モデル」を構築し、未来へつなぐサステナブルなまちの形成を進めてまいります。

#### ◆ 子供たちがいきいきと育つまち

3つ目は「子供たちがいきいきと育つまち」です。

子供は、家族や社会にとって、大きな可能性を持つかけがえのない存在であり、未来を創る力です。子供たちの健やかな成長を見守り支えるため、子育て世帯の不安感や負担感の更なる軽減を図るとともに、未来を担う子供たちが将来に希望を持ち、たくましく生き抜くための確かな学力と生き抜く力を育む教育の充実に取り組み、引き続き「子育て環境日本一」の実現を目指してまいります。

## (未来へつなぐ子育て支援の充実)

子供たちの健やかな成長をより一層支援するため、今年8月からこども医療費助成制度の対象年齢を18歳まで拡充し、医療費の自己負担額を無料とすることで、子育て世帯の経済的負担の軽減を図り、安心して医療が受けられる体制を整えます。また、次代の社会を担う子供一人ひとりの育ちを社会全体で応援し、総合的な子ども・子育て支援を推進するための計画策定に向け、ニーズ調査や子どもの貧困に関する実態調査に取り組み、国の方針や時代の潮流を捉えた、子供や子育て世代の視点に立った、より効果的な子育て施策の推進につなげていきます。

出会い、結婚、妊娠、出産、子育て、それぞれのライフステージにおける切れ目のない支援を推進します。結婚を望む方に対し、出会いの機会を提供するお見合い応援プロジェクトや、新生活に係る費用を支援するハッピーウェディング事業などに引き続き取り組みます。また、誰もが安心して子育てができるように、妊娠届提出時から産後のケア、子育て期の支援など、子育て世代包括支援センターを中心に伴走型のきめ細かな支援の充実を図ります。

0歳児から2歳児までの保育の受入れ枠を拡大するため、公立保

育所の施設改修に着手するとともに、保育現場で働く保育士の負担軽減を図ることで、保育の担い手の確保につなげ、待機児童の解消に取り組みます。また、公立の保育所等において、使用済みのおむつを自園で処分するよう取り組み、保護者の負担の軽減を図るとともに、園児の置き去りを防止する通園バスへの安全装置の設置を支援することで、児童の安全確保につなげるなど、保育環境を更に充実させてまいります。

#### (未来を切り拓く力を育むひとづくり)

児童虐待や不登校、ヤングケアラーなど支援を必要とする子供やその家庭に対し、関係機関と連携しながら寄り添い型の支援を進め、子供らしく生き生きと生活ができる環境づくりを推進します。また、日本語支援を要する児童生徒に対し、日本語支援ボランティアを派遣するなど、日常生活や学校での学習の充実を図ります。

小学校において、専門性を持った教員による教科担任制や35人学級を進めるとともに、デジタル教材などICTを活用し、GIGAスクール構想を着実に進めることで、新しい時代にふさわしい質の高い教育の確保に努め、個別最適な学びと協働的な学びの一体的



な充実に取り組み、誰一人取り残さないきめ細かな教育の実現を目指します。市立中学校の全員給食の早期実施を目指し、給食センター整備・運営のための実施方針の策定を進め、併せて子供たちの健康と食育の充実を図るため、学校給食にオーガニック食材の導入を推進します。

従来からの地域ボランティアの方による見守りに加え、I o T / I C Tを活用した子供の見守り環境が昨年11月に全小学校区で整いました。今後も地域の方々のご協力のもと、子供の登下校の安全の強化や家庭教育の支援、地域先達との協働・連携への取組を更に深化させ、地域と共に進める学校づくりを行います。児童生徒の安全を守り、安心して機能的な教育環境を確保するため、学校校舎の予防改修や照明器具のLED化、トイレの洋式化を進めるとともに、引き続き中学校屋内運動場への空調設置を促進し、新しい時代の学びに対応した教育環境の向上を進めます。

学校図書館の充実を図るため、学校司書2名を増員し、学校への巡回頻度の向上につなげることで、読書環境づくりや読み聞かせ、図書館の終日開館など図書館運営を更に充実させ、読書の魅力を伝えるとともに、継続的な読書習慣を育み、子供たちの豊かな感性を

磨く読書活動を推進していきます。

また、市民図書館においては、利用者の利便性や魅力の向上を図るため、図書館システムの更新を実施し、マイナンバーカードなどICカードによる貸出しを可能とするなど、市民図書館を拠点とした読書活動の更なる推進に取り組んでまいります。

#### ◆誰もが安心して暮らせる優しいまち

4つ目は「誰もが安心して暮らせる優しいまち」です。

子供や高齢者、障害者など、誰もが家庭や地域で、確かに安全と安心を感じられる心豊かな暮らしの実現を目指して、ともに助け合い、支え合う優しいまちを目指すとともに、防災力を高めるなど、生活や命を守る取組を進めます。また、デジタル技術や新しいモビリティの可能性をまちの推進力へと変え、誰にとってもより便利で住みやすいまちの形成を目指してまいります。

#### (新型コロナウイルス感染の拡大防止と物価高騰への対策)

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類に引き

下げられることとなりましたが、本市としましても、救急体制、保健医療体制などの柔軟な運用に努め、新型コロナウイルス感染症対策を着実に実施し、加えて必要な手立てを的確に講じることができるよう注視を継続するとともに、生活に身近な食材や商品等の物価高騰に対する支援に取り組むことで、市民の皆様の生命と生活を守り、安心して暮らすことのできる環境を構築してまいります。

#### (市民のいのちと暮らしを守る基盤づくり)

私たちが毎日の生活で買物や通学・通勤などに日常的に利用している道路の安全を確保するために、予防保全や側溝・水路の暗渠化を行うなど、生活関連道路の重点的な整備を進めます。また、今福神前線、有本中島線などの基幹道路についても引き続き整備を推進し、道路ネットワークの構築につなげます。

新広域道路交通計画や重要物流道路の候補路線に位置付けられている和歌山環状北道路及び和歌山環状道路について、整備効果の発現を通じた本市発展のため、引き続き京奈和・第二阪和連絡道路建設促進和歌山市議会議員連盟の皆様と共に国に対し早期の事業化について働きかけます。

気候変動の影響により、本市でも、猛暑日や大雨など、いわゆる極端現象と言われる異常気象が増加傾向にあります。水害においても激甚化や頻発化していることを踏まえ、あらゆる関係者が協働して流域全体で取り組む総合的な治水対策や、準用河川・普通河川の整備を推進します。また、紀の川における治水対策として、国土交通省において新六箇井堰の切り欠きが事業化されました。これは、紀の川大堰に関する和歌山市議会議員連盟の皆様と共に粘り強く要望を続けてきた活動の成果です。今後も、事業の確実な実施、事業実施後の効果検証などについて連携して国に働きかけてまいります。

防災・減災対策と並行して、事前に被災後の復興を考え、準備しておく必要があることから、事前復興計画の策定を進めます。また、3D都市モデルを活用することで、災害リスクを直感的にわかりやすく可視化し、市民の皆様や企業等の防災意識を高めるとともに、企業や学校での研究に活用いただけるよう、オープンデータ化し、社会全体で災害に備える安全・安心な社会の実現を目指します。

近年、救急出動件数が増加傾向にあり、令和4年は2万1千件を超え、過去最多を更新しました。災害への対応力を充実させるために、安定した119番通報への対応と迅速な出動を行うため、高機

能消防指令システム等を構築するとともに、塚本治雄基金等を活用し、高規格救急自動車等を購入します。また、大規模災害や火災等から地域住民の生命、財産等を守るために必要不可欠な消防団について、年額報酬の大幅な引上げを行います。

市内全域の安定給水を確保するため、水道施設や水道料金の在り方を再検討し、水道事業の方向性を示すことを目的として「和歌山市新水道事業ビジョン」を策定します。また、紀の川北部地域のリダンダンシー確保のため、紀の川横断部の送水管の複線化事業に着手し、令和9年度の完成を目指してまいります。

#### (便利で暮らしやすい地域づくり)

持続可能な地域交通の実現に向けた検討を深めます。これまでに実施した交通不便地域における地域バスやデマンド型タクシーの実証運行の結果を踏まえ、具体化に向けた在り方を研究するとともに、新しいモビリティの活用、MaaSの導入について検討を更に進めます。

本年7月に改正道路交通法が施行され、特定小型原動機付自転車の公道走行が可能となるなど、新たなモビリティを推進する流れが

生じています。この流れを捉えるためにも、和歌山市スマートシティ推進プラットフォームにおいて分科会を設置し、四季の郷公園において、グリーンスローモビリティ等を活用した楽しく持続可能な交通の実装に向けた取組を推進するほか、ドローンやVR技術などの活用に向けても検討を進めます。

デジタル化による利便性の向上を市民の方々が享受できるよう、マイナンバーカードを活用した本人確認や手数料のキャッシュレス決済など、行政手続のオンライン申請の機能を拡充し、併せてスマートフォンでオンライン申請の履歴や状況を確認できるサービスの導入を図ります。加えて、誰もが円滑にデジタルサービスを利用していただけよう、デジタル技術の利用方法がわからない方に、スマートフォンの操作やサービスの利用方法をお伝えする講座などを開催することで、デジタルデバインドへの対策を進めます。また、ペーパーレス化の推進として、市議会では市民に、より伝わりやすい情報提供のために、本会議場へモニターを設置するとともに、庁内のペーパーレス会議の環境を整えることで、業務の効率化とコスト削減に取り組むなど、行政のDXを推進してまいります。

## (地域とともに目指す誰もが生きやすい包摂的な社会の実現)

コロナ禍の影響により外出機会が減少したことで、健康活動に弊害が生じ、心身機能が低下する「フレイル」の増加などが懸念されるため、理学療法士など専門家の指導による健康体操の実施や、誘致した医療系大学の学生等との協働により、専門的知見を取り込んだ住民主体の健康づくりへの支援を行います。また、100歳大学など地域住民の生きがいつくりにつながる事業に対し支援するなど、介護予防の取組を更に推進するとともに、医療・介護のサービスが切れ目なく提供される包括的で継続的な支援体制の充実や、新たにI o T / I C Tを活用した高齢者の見守りサービスの導入を図るなど、誰もが住み慣れた地域で心身ともに健康で自立した生活を過ごすことができる環境を整えます。

地域住民が抱える複雑化・複合化した支援ニーズに対応するため、「断らない相談窓口」による「相談支援」や「参加支援」、「地域づくり支援」を一体的に取り組む重層的支援体制の充実を図ります。

高齢者や障害者が安全・安心に暮らすことができるよう、バリアフリーのまちづくりを進めるとともに、社会参加や自立に向けた支援体制づくりに取り組みます。加えて、女性の活躍推進に向けた研

修や講座等を開催するとともに、一人ひとりが互いに人権を尊重し合えるよう、人権問題への相談・助言や人権に関する啓発等に取り組むことで、誰もが相互に人格と個性を尊重し、多様な在り方を認め合い、支え合える全員参加型の共生社会の実現を目指してまいります。

私はこれまで、まちなかへの大学誘致や賑わいの拠点づくりなど、議会や市民、事業者の皆様との協働を通じて様々な取組を実現してまいりました。これらの経験を踏まえ、地域に備わる最も重要な資源は「人」と考えています。今後も、民間の皆様との様々な「連携・共創」に、より一層取り組み、本市職員の人材育成も含め「人」を育むとともに、遊休公有地の売却等を通じた適正管理や財政の健全化にも更に取り組みます。これまでの取組を通じて芽吹いた地方創生の蕾を大輪の花へと育て上げるために、本市固有の歴史・文化、自然環境などの魅力の持続的な磨き上げや、新しい時代の潮流を捉えた政策を実現することで、活力にあふれ、誰もが安心して暮らすことのできる「きらり輝く 元気 和歌山市」を成し遂げてまいります。



以上が、令和4年度の国補正にかかる補正予算と令和5年度の予算の概要です。

令和5年度の予算の規模は、

一般会計	1,472億6,578万7千円
特別会計	996億2,131万2千円
公営企業会計	395億 901万4千円
総計	2,863億9,611万3千円

で、前年度に対する増減は、一般会計で2.2%の増、特別会計で1.4%の減、公営企業会計は3.8%の増となり、全体では1.1%の増となっています。

一般会計の歳出は、定年延長などにより退職者が減少するため、人件費等で減額となりましたが、こども医療費無償化の15歳から18歳年度末への引上げや障害福祉サービス等給付費など扶助費、消防指令システムの更新など投資的経費、また、燃料高騰などによる物件費の増額などにより、総額としては増額となりました。

次に、特別会計では介護保険事業及び後期高齢者医療において給付費の増加などにより増額となりましたが、土地造成事業において

令和4年度で販売対象区画が完売することとなり、当該特別会計を令和5年度末をもって廃止する予定としています。これらにより特別会計全体で減額となりました。

また、公営企業会計では、工業用水道事業会計で減額となりましたが、水道事業会計及び公共下水道事業会計においては動力費の増加や新規事業の着手などにより増額、加えて、令和5年度より農業集落排水事業会計及び漁業集落排水事業会計が公営企業会計に移行されるため純増となり、公営企業会計全体で増額となりました。

今後とも、事務事業の見直しや事務の効率化を進めるとともに、行財政改革を継続的に推進し、規律ある市政運営を行うことで、市民にとって不可欠な行政サービスの安定的な提供に努めてまいります。

なお、補正議案の詳細につきましてはこの後、また、当初議案の詳細につきましては後日、担当局長から説明いたしますので、議員の皆様におかれましては、慎重ご審議の上、ご賛同賜りますようお願い申し上げます。

